

# つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

## わんぱく力士が夢のあと

— 巣鴨遺跡 巣鴨第一保育園分園舎地区の発掘調査 —



調査区西側の全景  
主に元禄期と化政期頃の遺構・遺物が発見されました

昨年11月～12月、巣鴨三丁目のわんぱく相撲広場の跡地にて発掘調査が行われました。

今回の発掘調査では、元禄頃(17世紀末～18世紀初頭)の遺物が多く出土しました。巣鴨町が町奉行支配に組み込まれる18世紀中頃よりも古い時期に当たります。この時期の巣鴨の様子は、未だに不明な部分が多いため、発見された遺構・遺物は江戸時代前半の巣鴨の歴史を紐解くヒントになりそうです。

幕末期の当地は、文献資料には「鑑屋」もしくは「青物屋」「古道具屋」の職業名が記されています。この時期の土坑から出土した遺物には、生活雑器とともに垣塙かがみやが見つかっており鑑屋との関連性が窺われます。この他では、全体(19世紀代)の出土品の6～7割は植木鉢るつぽで占められていました。鑑屋の西隣は「植木屋」

と記され、大量に出土した植木鉢は植木屋が捨てたものの可能性があります。このように様々な痕跡が発見されましたが、果たして、江戸時代の当地にはどんな町人が生業していたのでしょうか。(高木翼郎)



植木鉢が多く出土した大きな溝



こんなものも出土。突っ張り稽古用の鉄砲柱。子ども達の声が聞こえてきそうです。

講座「中世の城や館を歩いてみよう」では、埼玉県の比企郡を、10月と11月の二回に渡り訪れました。比企地区は、15～16世紀の城館が数多く存在する地域で、現在、69の城館が確認されています。第5回では、嵐山町の菅谷館と大蔵館に、第6回には秋のバスツアーとして、杉山城（嵐山町）と小倉城（ときがわ町）を訪れました。菅谷館・杉山城・小倉城は「比企城館跡群」として国指定史跡として登録されています。

第5・6回では、特別講師として比企地区の城館の発掘調査に携わっている、村上伸二さん（嵐山町職員）をお招きしお話を伺いました。

第5回に訪れた菅谷館と大蔵館は徒歩移動でした。歩くことで、周辺地形と館との関わりを直接見ることができます。実際に受講者も「攻めにくそうな土塁だね」「この川も防御のためか」など、見学のポイントを各々で考え、理解を深めているようでした。



杉山城：本郭（山頂）で説明を受ける受講者

今回は、実際に発掘を担当された村上さんの案内で、普段入ることの難しい場所に行くこともでき、また担当者だからこそ知っている、発掘調査の成果や裏話などをお話していただきました。遺跡を目の前にしての解説は、発掘当時の興奮が伝わり、受講者にとっても、私たち職員にとっても大変刺激の大きな講座となりました。



大蔵館跡：調査担当者である村上さんに、発掘調査の成果を交えて解説していただきました。

6回目に訪れた杉山城は多くの郭から成り、様々な形態の虎口や複雑な折れなどの遺構が残る、戦国期屈指の山城です。一歩足を踏み入れれば、方向感覚が失われてしまいそうな造りで、その複雑な城構造なゆえ、お昼休みにも関わらず城内を何度も歩いて確認される方々も見受けられました。

小倉城は、戦国期の関東の城ではまれな石垣を有しています。受講者は、緑泥片岩（りょくでいへんがん）を使用して築かれた石垣の珍しさと青光りするその美しさに目を留めていました。険しい道のりが続きましたが、石垣を目の当たりにして疲れを忘れた事でしょう。



小倉城：今も残る石垣

## 文化財展 2012 が終了しました

前号にてお知らせした『豊島区の文化財展 2012』は、11月9日に無事終了しました。



埋蔵文化財展示「江戸の玩具と子どもの世界」はいかがでしたでしょうか。当時の子どもの遊び方や大人の子どものための想いなど、現代とは違う様子を伝えることができたのであれば嬉しい限りです。

今後も新しい切り口から埋蔵文化財に親しめる展示を企画したいと思いますので、来年も楽しみにしててください。

↑リーフレット（カラー版）は当会ホームページよりご覧になれます



ままごと道具が可愛いと評判

## 遺跡講座の近況報告

2012年度の遺跡講座は、前・後期に分けて行っています。前期は室町時代以前の豊島区内の遺跡についての講座でした。

後期は、前期に引き続いて「江戸時代のとしまの地域を知ろう」と題した講座を開講しています。内容は、江戸時代の幕開けの村落と以降に現れる武家地や町屋などについてです。全4回講座のうち、



現在、第2回まで終了しています。この遺跡講座の特徴は、実際に出土した遺物を受講者の皆さんに直接観て、触れていただけたところにあり、本講座の強みの一つとなっています。

後期講座は折り返し地点にさしかかっていますが、受講者の方々に喜んで頂けるよう、我々も勉強していきます。

(山崎吉弘)

## 展示開催中 終了致しました 巣鴨でまちかど遺跡ミュージアム

雑司が谷地区での第1・2弾に続く、“まちかど遺跡ミュージアム”が巣鴨において開催されています。会場である巣鴨地域文化創造館(中山道待夢)は、「巣鴨遺跡つつじ苑地区」として巣鴨遺跡で初めての本格的な発掘調査が実施された場所です。

巣鴨まちかど遺跡ミュージアムの記念すべき第1弾は、巣鴨遺跡発祥の地とも言える、つつじ苑地区の調査成果を紹介しています。展示では写真や出土

した遺物をご覧になれます。是非、足をお運び下さい。

(高木翼郎)



会場は巣鴨地藏通りに面しています

なかせんどうたいむ  
 巣鴨まちかど遺跡ミュージアム  
**中山道待夢を発掘する**

**会 期：**3月31日(日)まで  
**会 場：**巣鴨地域文化創造館  
**所 在 地：**豊島区巣鴨4-15-11  
**開館時間：**午前8時半～午後9時半  
**休 館 日：**1/5～1/18・2/11・3/20  
**入 館 料：**無料  
**問 合 せ 先：**(公財)としま未来文化財団 巣鴨地域文化創造館  
 【Tel】03-3576-2637  
**交 通：**JR 山手線「巣鴨駅」徒歩15分、  
 都営地下鉄「巣鴨駅」徒歩15分、  
 都電荒川線「庚申塚駅」徒歩3分、  
 都バス「巣鴨四丁目」バス停3分



### イベント報告

## “きんぷくまつり”

11月22日と23日に、豊島区立勤労福祉会館において開催された「きんぷくまつり」に特別展示として参加しました。「江戸時代の遊びの道具」と題したパネル展示とそれに連動した「豊島ものしり検定」を行いました。小学生向けのものに企画しましたが、子ども以上に大人の方に関心を持っていただいたようで、見学者の多くは大人でした。

展示では、当会職員が作成した豊島区内の遺跡から出土した泥メンコの複製品を無償配布し好評を得ました。また、会場では江戸時代のメンコ遊びも行い、こちらも好評を博しました。(山崎吉弘)



泥メンコに興味津々な見学者の様子

## つくって遊んで知る江戸時代

11月3日、豊島区教育委員会主催の親子向け考古学体験講座『レッツトライ！考古学 - 江戸時代の子どものおそび』が開催されました。遺跡でよく出土する江戸時代のおもちゃ「泥メンコ」を素材として、メンコ作りと昔の遊びを体験する講座です。

当会は型や複製品作り、当日の作業補助を担当しました。初めての試みだったので準備は難航。材料の選定や作業の進め方など、試行錯誤しながら改良を重ね、前日には遊びの試技会までやってみて、万全の準備で当日を迎えました。



コツを覚えたら一人でできるよ

当日の参加者は6人で、型に粘土を詰めて、金太郎やウサギ、セミなどの模様がついたメ

ンコを抜き取る作業に取り組みました。子どもも大人も夢中になり、10個以上作る人も。作ったメンコを乾かしている間に、複製品でメンコ遊びをしました。地面的に投げて、メンコを取ったり取られたりするルールです。ゲームは接戦となり、優勝を逃した子は悔し涙を見せるほどの熱い戦いが繰り広げられました。



低い所から投げるのが良いみたい

大人も子どもも楽しめるメンコ遊び。江戸遺跡に親しむ入り口として、講座やイベントにも取り入れてみたいと思っています。今後にご期待下さい。

(成田涼子)

### 新春お散歩会

## 藤堂家染井屋敷由来の石造物群

去る1月5日、有志らを誘い、参詣がてら板橋区乗蓮寺などを訪ねました。

まず、巣鴨庚申塚から周辺の文化財(延命地藏や大日堂)を回った後、電車にて西高島平駅、そして目的地である、東京大仏で有名(?)な乗蓮寺に到着。閉山間際にも関わらず大勢の参詣客でなかなかの盛況ぶり。有志一同は詣でを一往に済ませ、境内の石造物探しに勤しんでいました。文殊菩薩、鉄拐仙人、脱衣婆などが置かれ、これらの石造物は伊勢津藩藤堂家ゆかりのもので、もとは染井屋敷(近世)の庭園に配されていたことが文献資料などで明らかになっています。しかし、現在、染井の地に藤堂家に関連する地上文化財は、「藤堂家裏門」と伝わる腕木門しか残されていません。乗蓮寺の石造物の一部は当時の藩邸内の様子を偲ばせる貴重な遺物と言えます。



文献・石造物・考古の各分野の研究者で構成された有志による議論は進み、石材や年代・履歴などの情報を共有し知見を広める事ができました。大変収穫の多い散歩会となりました。

(高木翼郎)



鉄拐仙人像

## 2013年度 考古学講座開講のお知らせ



2013年度考古学講座(としま未来文化財団文化カレッジ)は前期(5~9月)、後期(10月以降)の2期に分けて開講します。前期講座は、主に江戸時代を中心に最新の研究成果を踏まえた豊島区内の遺跡について解説します。また、実際に区内遺跡から出土した遺物を観て、触れていただきます。後期は、「中世の城や館を歩いてみよう」シリーズで、前後期ともに定員は30名を予定しています。

講座の詳細・申込方法は「広報としま」3月11日号、「財団ニュースみらい」4月5日号、としま未来文化財団のwebサイト(3月1日以降)に掲載されます。

\*当会会員の方は、受講費から1割引いた価格で受けられます。

展示予告

## 『冬の収蔵資料展』

豊島区立郷土資料館で企画展『冬の収蔵資料展』が1月22日からはじまります。この中の考古資料展示コーナーでは、区内の遺跡から出土した、江戸時代の子どもの玩具にスポットをあてています。ままごと道具や泥メソコの遊び方、信仰など、各テーマに沿って集成した約80点の資料（豊島区教育委員会保管）を公開します。このほか、館収蔵品の「むかしの暮らし」展示などが、写真や実物資料で紹介されています。



考古資料展示コーナーには当会も協力致しました。

【展示の詳細】

終了致しました

会 期：1月22日(火)～3月31日(日)

午前9時～午後4時30分

会 場：豊島区立郷土資料館

入館料：無料

休館日：月曜日

所在地：豊島区西池袋2-37-4

交 通：池袋駅（JR・私鉄・地下鉄各線）

西口・メトロポリタン口より徒歩8分

郷土資料館 Tel 03-3980-2351

## 「社会貢献活動見本市」に出展します

地域課題を市民力で解決することを目指し日々活動し、努力する豊島区のNPO法人やボランティア団体等の活動内容は多岐に渡ります。約50団体のポスターセッション形式による見本市は、そんな活動を一般の方々を知っていただくために開催されています。

地域で活動する様々な団体を知る、または交流されるには良い機会かと思われま。

【開催日】2月24日(日) 午前11時～午後5時

【開催場所】東京芸術劇場 5階 入場無料

## 平成24年度事業報告・会計収支報告

平成24年11月5日に当会第6回定期総会が行われ、平成24年度（平成23年10月1日から平成24年9月30日まで）の事業報告とこれに伴う会計収支をご報告いたします。

### ◎事業報告

#### 1) 発掘調査

豊島区教育委員会と連携して区内19カ所で合計23件の埋蔵文化財試掘調査・本調査を実施しました。駒込一丁目遺跡では、弥生時代の竪穴式住居や方形区画溝が発見され、当該期の集落を考える上で貴重な事例を加えることができました。このほかの遺跡でも新しい発見があり、それぞれの地域の歴史を考える上で貴重な情報を得ることができました。

#### 2) 整理作業・調査報告書刊行

報告書刊行に向けた整理作業は17件。豊島区埋蔵文化財調査報告2冊、としま遺跡調査会調査報告1冊、豊島区遺跡調査会調査報告2冊を刊行しました。また、平成22年度に行った発掘調査の概報を一冊にまとめた『豊島区埋蔵文化財調査概報集7』を編集刊行しました。都合6冊の報告書刊行に携わったこととなります。

#### 3) 普及啓発

豊島区からの委託事業としては、平成23年10月に「江戸を照らしたあかりの道具」と題する区役所本庁舎ロビー展示、および東京地下鉄副都心線雑司が谷駅構内の雑司が谷遺跡紹介パネルの展示替え（移りゆく雑司が谷のまちなみ）、そのパネルの保守点検作業などを行っております。また、豊島区立郷土資料館「2011年度冬の収蔵資料展」・「2012年度春の収蔵資料展」に協力しました。この他、豊島区立勤労福祉会館主催「きんぷく&フォーフェスタ」でパネル展示及びものしり検定（小学生以下対象）を実施しました。

#### 4) 人材育成

（公財）としま未来文化文化財団と連携して、「考古学から学ぶ豊島区とその周辺」・「原始から中世のとしまの地域を知ろう」「中世の城や館を歩いてみよう」と題する区民講座を実施しています。また、豊島区制施行80周年記念事業の一環で「巣鴨・歴史再発見講座」を実施しました。

< 特定非営利活動に係る事業 >

事業名	事業内容	事業年月	事業場所	事業者の 延人数	事業対象者の 範囲および人数	支出額 (千円)
発掘調査	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査・試掘調査・基礎整理作業および立会い調査補助作業	2011.10～2012.9	豊島区内	170人	豊島区民 不特定多数	12,165
整理調査	発掘調査の記録・出土遺物等の整理作業	2011.10～2012.9	豊島区内	620人	豊島区民 不特定多数	6,925
報告書刊行	豊島区および豊島区遺跡調査会報告書の編集・刊行への協力および、としま遺跡調査会報告書の刊行	2011.10～2012.9	豊島区 巣鴨複合施設内	20人	豊島区民 他 450人以上	291
普及啓発	「つたのは通信」発行、展示会・遺跡見学会等の開催協力および実施等	随時	豊島区内	105人	主に豊島区民 不特定多数	480
人材育成	豊島区「レットライ 考古学」開催協力および考古学講座の開催協力	随時	発掘調査現場、 勤労福祉会館など	49人	主に豊島区民 不特定多数	191

< 平成 24 年度 会費収支決算書 > (正会員・賛助会員費)

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
会費収入	26,000	
賛助会費収入	20,000	
入会金収入	3,000	49,000
2 その他収入		
利息収入	45	45
収入合計 (A)		49,045

科 目	金 額	
II 支出の部		
1 会費・入会金支出		
会費発送量	6,320	
総会資料発送費	1,220	7,540
消耗品		
会員カード用紙	840	840
支出合計 (B)		8,380

当期収支差額 (A)-(B)

40,665

前期繰越収支差額 (C)

188,911

合計 (A)-(B)-(C)

229,576

< 平成 24 年度 会計収支決算書 >

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費・入会金収入		
会費収入	26,000	
賛助会費収入	30,000	
入会金収入	3,000	49,000
2 事業収入		
発掘調査事業	17,665,281	
整理作業	7,939,450	
報告書作成事業	291,724	
普及啓発事業	480,864	
人材育成費	191,317	26,568,636
3 補助金等収入		
短期借入金収入	0	0
4 その他収入		
利息収入	4,199	
雑収入	1,000	5,199
収入合計 (A)		26,622,835

科 目	金 額	
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 発掘調査事業費	12,165,391	
(2) 整理調査事業費	6,925,248	
(3) 報告書作成費	291,724	
(4) 普及啓発事業費	480,864	
(5) 人材育成費	191,317	20,054,544
2 管理費		
賃金	1,647,351	
厚生費	1,227,910	
顧問料	60,000	
(税理士報酬)		
研修費	0	
役務費	28,875	
需用費	174,155	
施設費	196,100	
使用料・賃貸料	441,000	
租税公課	1,792,900	5,568,291
3 その他支出		
短期借入金返済支出	1,000,000	1,000,000
支出合計 (B)		26,622,835

当期収支差額 (A)-(B)

0

前期繰越収支差額 (C)

124,821

合計 (A)-(B)-(C)

124,821

◎役員を選任

理事は、前期から引き続き菊池徹夫(理事長)、根岸豊、橋口定志が再任、新たに古泉弘、小森晴子が選任されました。監事には浜田晋介が再任、新たに区民から小池陸子が選任されました。(事務局)

【編集後記】

開催中の巣鴨まちかど遺跡ミュージアムは、ミニ展示ではありますが巣鴨遺跡の出土資料をご覧になれる貴重な場所です。遺跡を身近に感じてほしい、また巣鴨周辺の歴史散策の拠点になれば幸いです。(翼)

編集・発行

 特定非営利活動法人  
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来: 蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物にたいはねるように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字: 湯澤和子

ロゴデザイン: 石原幸

イラスト: 高木翼郎、菅沼晶子